

リリースノートについて

JMP 9.0.2は、改良とバグ修正を加えた一般メンテナンスリリースです。以下のリストは、9.0.2で行われた修正の範囲を紹介するために作成されたもので、すべての修正点を網羅しているわけではありません。対応可能な期間内に報告されたすべての再現可能な強制終了および数値的問題はすべてが修正されました。JMP 9がインストールされているすべてのコンピュータにこのメンテナンスリリースを適用することをお勧めします。

新機能

- 等高線のGenerate Grid()(グリッドの生成)のJSLオプションに、縦と横の引数を指定できるようになった。
- List BoxのSet Selectedメッセージに、スクリプトを実行するか否かを指定する3つ目のオプション引数を追加した。

数々の改良に加えて修正された問題:

- 実験計画の [テーブルの作成] で作成したシミュレーションのデータテーブルに Run Formulas コマンドを送ると、JMPがクラッシュする。
- List Boxの項目に不正な構文が使用された場合、JMPがクラッシュする。
- JMPオートメーションで要約テーブルの元となったテーブルを閉じると、JMPがクラッシュする。
- JMPオートメーションで、Documentクラスの「Name」メソッドが機能しない。
- JMPオートメーションで、TableBoxMakeDataTableメソッドが正しく動作しない。
- JMPオートメーションで、GetDataTableメソッドが特定の状況で正しく動作しない。
- スクリプトにより、レポートを閉じた直後に元のテーブルに対して変更をかけられない場合がある。
- XPでJMP Excelアドインを使用すると、Excel 2010がクラッシュする場合がある。
- 「選択モデル」プラットフォームで、パラメータ推定値の信頼区間が間違っている。
- 重ね合わせプロットで、Altキーを押しながら赤い三角ボタンメニューをクリックした後 [プロットの配列] オプションを指定しても機能しない。
- Ctrlキーを押しながら Match 関数をクリックすると、JMPが予期しないエラーで終了する。
- 「選択モデル」と「一般化線形モデル」プラットフォームにおいて、Firthのバイアス調整最尤法による効果の尤度比検定および複合因子検定で誤った尤度が使用される。
- 等高線プロットの塗りつぶしオプションで、一部の等高線が削除されてしまう。
- スクリプトによりデータテーブルを連結した場合、その後の処理が連結前のデータに対して行われる場合がある。
- データの初期化として [シーケンスデータ] を指定した場合、テーブルの最後まで埋められない。
- 「一変量の分布」の工程能力分析で、移動範囲によるシグマを指定すると除外された値、重み、および度数が無視される。
- モデルのあてはめで By グループ処理を行い、レポートからスクリプトを保存して再実行した場合処理されないByグループがある。
- グラフビルダーによるグラフを、コピー、貼り付けした際にグラフが空白になる場合がある。

JMP 9.0.2 リリースノート

- 非線形回帰の [推定値の保存] により保存された式が、正しく機能しない。
- パーティションプラットフォームで応答変数が名義尺度の場合、葉のレポートの応答の度数が正しくない。
- 予測プロファイルをクリックしたときに、因子設定が予期せぬ値に変化してしまう場合がある。
- 64ビット版のExcel 2010が動作している環境でExcelアドインが正常に機能しない。
- 混合モデルでREML法を使用した場合、[予測値の保存]などで保存される予測値がSASのPROC MIXEDの結果と一致しない。
- 「散布図行列」のプラットフォームで指定された列に名義尺度のものが含まれているとき、[楕円の確率]オプションが選択されると、その後JMPがクラッシュする。
- 「モデルのあてはめ」ウィンドウで、応答変数を複数指定して手法をステップワイズ法とした場合、一部の応答変数のみに指定した変数変換がすべての応答変数に適用される。
- JMPからいったんRに接続すると、そのセッション内でSASに接続できない。